

議会だより

No.223

編集：議会広報特別委員会

令和7年 第3回定例会（9月18日）

議案12件、陳情4件、同意1件、承認1件、報告2件、意見書5件、動議案1件、発議1件が提出され原案のとおり決定した。

任命

○教育委員会委員の任命

川原 誠 氏

教育委員会委員として任命する案に同意した。

任期↓令和7年10月1日から

令和11年9月30日まで

決算認定

○令和6年度幌加内町各会計歳入歳出決算認定について

○決算審査特別委員会を設置して、閉会中の継続審査とした。

条例改正

○職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例

○人事院規則において育児時間の多様化に関する規定の整備及び年齢に応じた柔軟な働き方を

実現するための措置が規定されたことに伴う地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正を踏まえて、条例の一部を改正。

○職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

○地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正により、育

児部分休業制度が拡充されたことに伴い、本条例の関連規定を改正。

意見書

○国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書案

○教職員未配置問題の抜本的改善を求める意見書案

○国の責任による少人数学級のさらなる前進を求める意見書案

○特別支援学校の過大過密解消及び特別支援学級の学級編成標準の改善を求める意見書案

○すべての高校で35人以下学級の実現と「高校配置計画案」の見直しを求める意見書案

協議の結果、決定した。

発議

○閉会中の所管事務調査の申し出について

○議会運営委員会及び総務厚生常任委員会、産建文教常任委員会からの申し出を協議の結果、許可した。

報告

○令和6年度幌加内町一般会計継続費清算報告

生涯学習センターふれあい

ホール舞台吊物機構改修事業が

令和5年度から6年度までの2

年間で終了し、総額9,240

万円とした。

議会の様子をホームページで見ることができます！



議員の活動や広報など掲載しています。
議会ページは町ホームページから見るができます。

町長の行政報告及び教育長の行政報告がありました。概要についてお知らせします。

町長行政報告

「主要農作物の生育状況」

もち米は、融雪期が4月22日と平年並みで、春先の降雨により耕起作業は1日遅れたものの、は種後の気温が概ね高く推移したことから、移植は平年並みの5月16日に実施され、出穂期は平年より7日早まり、全体として順調に生育しました。収量は概ね平年並みの見込みです。一方、そばは融雪が平年並みで農作業のスタートは順調でしたが、6月中旬から8月上旬にかけての高温や豪雨が生育に大きく影響しました。特に7月から8月にかけて3度の集中豪雨が発生し、朱鞠内地区では1回あたり最大で100ミリを超える雨量を記録しました。8月26日から27日にかけては短時間に激しい雨と風があり、そば畑全体の約半分に当たる1,685ヘクタールで倒伏が確認され、約30ヘクタールでは冠水・浸水の被害が発生しました。現時点では、被害面積のみを北海

道など関係機関に報告しており、今後の回復状況を見ながら最終的な被害額を算出する予定です。もし回復が見られなかった場合、最大で約2,900万円の被害になると試算しています。現在は水稻で6割、そばで4割ほどの収穫が進んでおり、何とか平年並み以上の出来秋を期待しています。

「新たなそば加工施設の建設決定」

町の特産品である「幌加内そば」のブランド力をさらに高めるため、新たなそば加工施設の整備が決定しました。事業主体は町の指定管理者である株式会社ほろかない振興公社で、現在の農産加工総合研究センター北側に、年間約150万袋の製麺が可能な新工場を建設します。建設費は約34億円で、10割乾麺の製造にも対応できる最新設備を備える計画です。この構想は、コロナ禍を挟み約6年にわたって検討が続けられてきましたが、近年の物価高騰により建設コストが上昇する中、早期の決断が必要と判断しました。今後は国や道の補助金、地方債の活用などにより財源を確保する

とともに、長野県のそば製造企業「株式会社おびなた」と連携し、製造技術や営業体制の強化を図り今後もブランドの確立と地域産業の振興をめざします。

「J・クレジットを活用した森づくりへ」

環境分野の新たな取組として、株式会社NTTドコモと「持続可能な森づくりに関する基本合意書」を締結しました。この合意書は、ゼロカーボンの推進を目的に、ドコモの通信技術やノウハウを活用しながら、町有林の整備や環境保護活動の「見える化」を進め、持続可能な森林経営を実現していくことを定めたものです。具体的には、町有林の整備によって二酸化炭素の吸収量を高め、その「環境価値」をJ・クレジットとして企業が購入できる仕組みを構築します。また、スマート林業機械の導入検証や、町民を対象とした環境教育にも連携して取り組む予定です。今後は、町有林の吸収量調査を実施し、事業ごとに覚書を締結して具体的な活動を進めていきます。

教育長行政報告

「幌加内高校生、そば打ち全国大会に出場」

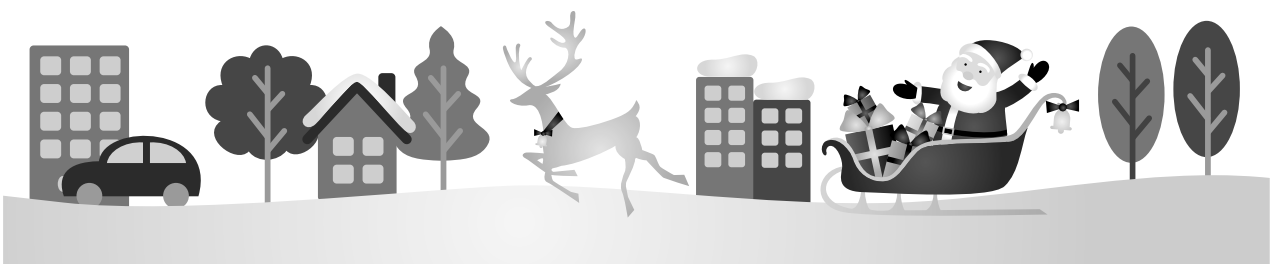
8月6日に東京都港区で開催された「第15回全国高校生そば打ち選手権大会」には、同校の1チームが出場。教員や講師の指導の下、全員が力を出しきりましたが、優勝旗の奪還とはなりませんでしたが、今後に向けて気持ちを新たにそば打ちに励んでいたできればと期待するところです。

「農業クラブ発表大会で全道へ」

6月26日から27日にかけて旭川農業高等学校で開催された「北海道学校農業クラブ連盟意見発表大会」では、3年生の野口翔さんが「分野Ⅰ類」で優秀、黒龍遥稀さんが「分野Ⅱ類」で最優秀を受賞し、そろって全道大会への出場権を獲得しました。

8月27日から28日に留寿都村で開催された全道大会では入賞には届きませんでしたが、2年連続全道大会へ進めたことは称賛でき、今後の更なる活躍に期待を申し上げるとともに、校長先生を初め、諸先生方に深く感謝

と敬意を表すところです。



一般質問



蔵前議員

Q 緊急銃猟への対応体制について

A 対応マニュアルを改定中で、出没段階ごとに行動指針を整備している。

Q 9月1日に改正された鳥獣保護管理法では、市町村が判断して「緊急銃猟（きんきゅうじゅうりょう）」を行えるようになった。

これまでは発砲の際に警察官の了承が必要で、改正後は人の生活圏に危険な鳥獣が出没した場合、市町村の判断でハンターに駆除を委託できるようになっている。

幌加内町でもヒグマの出没が見られるが、今のところは町中心部から離れた場所が多い状

況。しかし今後、冬に向けて出没が増える可能性もある。

もし町内中心部にヒグマが現れた場合に備えて、緊急銃猟に対応した「マニュアル」などの整備は進んでいるのか。

また、新聞では「市町村にはノウハウがなく、協議に時間がかかっている」との報道もあったが、本町ではどのように協議を進めているのか。

答弁

町長

A 鳥獣による人身被害が全国で増加しており、それを受けて法改正が行われた。

これにより、市街地でも住民の安全が確保できる場合に限り、市町村長の判断でハンターに依頼して緊急銃猟を行えるようになった。

本町では、過去に朱鞠内湖畔で発生したヒグマによる人身事故を契機に、「ヒグマ被害防止対策協議会」を設立した。

専門家の助言を受けながら「幌加内町ヒグマ出没時の対応方針」を定め、出没の危険度に応じた段階0〜3、さらに「緊急対応型問題個体」に区分し、対応内容を明確化している。

危険度が段階3以上の場合

「幌加内町ヒグマ対策本部」を設置して対応することになっている。

また、職員向けには「職員ヒグマ対策対応マニュアル」を作成し、出没情報があった場合には迅速に初動体制をとれるよう整備している。

7月には環境省主催の「緊急銃猟ガイドライン」説明会、8月には保険会社による「緊急銃猟時補償費用保険」の説明会が開催された。

本町としても、それらを参考に既存マニュアルの改訂作業を進めている段階。

一方で、緊急銃猟の実施には多くの課題がある。

実施条件としては「市街地や建物に侵入、またはその恐れがある」「銃猟以外の手段がない」といった要件を満たす必要がある。

さらに、現場ではハンター支援、判断、通行制限、避難指示、映像記録、広報、処理など多くの役割が求められる、少なくとも10人程度の体制が必要とされている。

そのため、職員やハンターの知識・技能向上、地域住民や関係機関の協力、そして「緊急銃

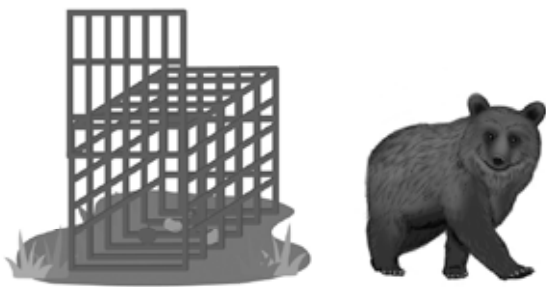
猟訓練」の実施も欠かせない。

町としては「緊急銃猟」を発動しないで済むよう、日常生活圏外での箱わな設置などの水際対策を強化していく。

町民の皆さんには、ヒグマを引き寄せないために、コンポストやごみの管理を徹底し、観光客にはポイ捨てを控えるよう呼びかけている。

また、ヒグマへの正しい理解を深めるため、11月8日（土）には「2025ヒグマフォーラム 幌加内」を開催する。

今後も箱わなや自動撮影カメラの増設、職員体制の強化に努め、町民の安全を守っていく。



●議会事務局からのお願い●

議長宛の文書や案内状は、議長公務の日程を調整する必要がありますので、直接議会事務局へ送付願います。

(送付先) 〒074-0492 北海道雨竜郡幌加内町字幌加内 4699 番地
幌加内町議会事務局宛

Q

役場庁舎へのエアコン設置について財源確保が課題。遮光フィルムの試験や扇風機などで暑さ対策を行い、効果をみながら今後の導入を検討。

A

今年の夏は猛暑が続き、冷涼といわれる幌加内でも気温が高く、職員にとって厳しい環境だった。

暑い庁舎では業務効率やモチベーションの低下も懸念される。教育委員会なども含め、庁舎へのエアコン設置を検討しているかどうか。

また、エアコンを設置すれば、夏季の酷暑時に庁舎を「クーリングシェルター（避暑施設）」として町民に開放することも可能。

次年度に向けた考えは。

答弁

町長

A 近年は気候変動の影響により気温上昇や豪雨、干ばつなどの異常気象が増えている。

本町でも今年は真夏日（30℃以上）が23日あり、最高気温は33・7℃を記録した。過去5年間の平均は17・4日。冷房設備を備えている町の施設は、生涯学習センターの一部ホールや音楽室、農業活性化センター、町民研修センターの研修室、ほろみんラウンジなど。

また、小・中・高校の教室や保健室にも設置済みで、本年度中には保健福祉総合センターの一部にも導入予定。

これらの施設は国の補助金や起債を活用して整備しており、熱中症警戒アラート発令時には「クーリングシェルター」として開放を検討している。

一方で、役場庁舎へのエアコン設置には、設備改修を含めておよそ3,300万円（税込）が必要となる。

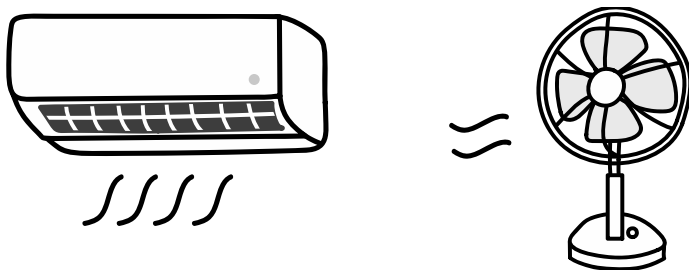
電力使用量の増加に伴う工費や物価高騰の影響もあり、財源確保が課題。

今年度は、庁舎1階の窓に放射冷却フィルムを試験的に設置しており、外気温30℃以上でも室温は20℃台後半に抑えられることが確認されている。

その他、大型扇風機やスポットクーラーを併用し、来庁者や

職員が少しでも快適に過ごせるよう環境改善を進めている。今後は、フィルムの効果検証を踏まえ、建物性能に合った設備を検討しているが、厳しい財政状況の中で費用面の課題も大きい。ため、慎重に判断する必要がある。

役場庁舎は町民生活に密着した場所であり、今後も利便性と快適性の向上に努めていく。



★ 議会を傍聴してみませんか ★

定例会は3月・6月・9月・12月の年4回開催されます。傍聴の手続きは簡単、受付簿に「住所」「氏名」を書いていただければ結構です。

予算審査特別委員会、決算審査特別委員会は年1回開催されます。

議会の
開催時期

- ・第1回定例会 3月中旬
- ・予算審査特別委員会 3月中旬
- ・第2回定例会 6月中旬～下旬
- ・第3回定例会 9月中旬
- ・決算審査特別委員会 10月中旬～下旬
- ・第4回定例会 12月中旬～下旬

議会事務局／役場別館3階 ☎ 0165-35-2121 (内線373)

補正予算

○令和7年度幌加内町一般会計補正予算(第3号)

議会費…道外行政調査旅費の追加、一般管理費の修繕料の増額。町制130年記念事業…カントリースサインの新デザイン募集に伴う報奨金・記念品費用の追加。社会福祉費…外国人介護人材育成支援の対象者増による負担金の追加、各種補助金返還金の精算。住宅費…町営住宅の修繕・撤去費、住宅リフォーム補助金の増額、緑ヶ丘団地廃止に伴う移転保証費の追加。その他…ほろたちスキー場等公社施設の改修経費、給食費の物価高騰への対応。地方交付税5,585万円の追加などにより、歳入歳出にそれぞれ5,708万4千円を増額し、予算総額を47億7,057万4千円とした。



質疑

中南委員

Q

自家用車使用時の単価(1kmあたり15円)

について、現状に見合っていないのではないかと。

回答

大野副町長

A

来年度に向けて見直しを検討する。

○令和7年度幌加内町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

令和8年度から国民健康保険料に「子ども・子育て支援金」が上乗せされるため、必要となるシステムの改修費用として、歳出にシステム改修業務委託料117万5千円を追加するとともに、歳入においても同額の国庫補助金を追加し、予算総額を1億6,704万9千円とした。

○令和7年度幌加内町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

令和8年度から後期高齢者医療制度の保険料にも「子ども・子育て支援金」が含まれることになるため、必要となるシステ

ムの改修経費と、令和6年度の繰越金を合わせて342万6千円が追加され、総額を4,100万3千円とした。

○令和7年度幌加内町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)

全国統一の標準化システムに対応した被保険者証や負担限度額認定証、介護保険料納付書などの各種帳票を作成する必要があるため、その経費54万9千円を追加し、総額を2億1,019万3千円とした。

○幌加内町簡易水道事業会計補正予算(第1号)

幌加内浄水場の原水ポンプが経年劣化により故障したため、修繕料として原水及び上水費に38万5千円を追加した。これにより、収益的収入および支出がそれぞれ38万5千円増額され、補正後の収益的収入(簡易水道事業収益)は1億268万9千円、収益的支出(簡易水道事業費用)は9,308万5千円とした。

産建文教常任委員会行政視察報告

調査事項：農産加工センターの改修

視察先：長野県(株式会社おびなた)

調査年月日：令和7年7月17日

視察議員：蔵前委員長 中南委員 中村委員 寺崎委員 藤井委員

そばの加工販売で国内トップ企業であり、幌加内町とほろかない振興公社と包括連携協定を締結している「株式会社おびなた」本社を訪問し、業務内容をはじめ製品開発や製造過程の説明を受け、隣接する工場施設の視察を行なった。



調査事項：道路・河川の整備について

視察先：三笠市(幾春別川ダム建設事業所)

調査年月日：令和7年10月14日

視察議員：蔵前委員長 中南委員 中村委員 寺崎委員 藤井委員

幾春別川ダム事業所長より、幾春別川総合開発事業の概要説明を受け新桂沢ダムの新旧堤体内部視察、三笠ばんべつダム工事状況の視察、JV宿舎の状況視察を行なった。



議会日誌 7～10月

7月

- 1日 戦没者追悼式
- 4日 広報委員会
- 8日 道町村議会議長会主催「議員研修会」(札幌市)
- 15日 なおみちカフェ対応
- 17日 産建文教常任委員会行政視察(～18日、長野県)
- 23日 京都府亀岡市議会行政視察
- 26日 北口ゆうこう道議と語る青空の集い(士別市)
- 28日 広報委員会
- 29日 上川北部議会事務局研修会(士別市)
- 30日 三町広域振興協議会旭川要望(旭川市)

8月

- 1日 三町広域振興協議会留萌要望(留萌市)、札幌要望(札幌市)、三町広域振興協議会 札幌要望懇談会
- 4日 道々旭川幌加内線整備促進期成会札幌要望(札幌市)
- 5日 全道林活議連絡会定期総会(札幌市)
- 6日 全国高校そば打ち選手権大会(東京都)
- 18日 士別地域日台親善協会総会(士別市)
- 19日 広報研修会(札幌市)
- 20日 士別地方消防事務組合議会臨時会
- 21日 全員協議会
- 22日 民生委員推薦会(アルク)
- 28日 和寒・剣淵・幌加内3町議会議員研修会(剣淵町)北海道市町村職員退職組合議会定例会(札幌市)
- 29日 第30回幌加内町新そば祭り記念フォーラム2025



9月

- 3日 剣淵町役場訪問、広報委員会
- 6日 母子里水道利用組合50周年記念式典、添牛内自治区「長寿に感謝する集い」
- 7日 士別市長選挙当選祝い(士別市)
- 8日 旭川市長選挙当選祝い(旭川市)
- 10日 議会運営委員会、全員協議会
- 13日 幌加内自治区敬老会、朱鞠内自治区敬老会
- 15日 母子里自治区敬老会
- 18日 全員協議会、第2回定例会
- 24日 上川町村議会事務局長会前期研修会(旭川市)
- 28日 関西幌加内会(京都府)

10月

- 2日 上川管内町村議会議長研修会(～3日、南富良野町)
- 14日 産建文教常任委員会行政視察(三笠市)
- 16日 秋の交通安全町民集会(大講堂)
- 17日 上川北部市町村議会議長会定例会(美深町)
- 18日 上川北部市町村議会議長会定例会(美深町)
- 21日 決算審査特別委員会、共和町議会常任委員会行政視察
- 22日 決算審査特別委員会
- 24日 決算審査特別委員会
- 30日 3町現地検討会(沼田町ほか)
- 31日 上川町村議会議長会正副会長会議(愛別町)

